

一人でも多くの命を救え！



救急救命士の実習に協力しています

当院は、救命救急医療に重要な役割を果たす救急救命士の実習を受け入れています。

病院実習



当院では、年間約50名の救急救命士の実習を受け入れています。習得した知識を実習で理解し、救急現場で適切な救急救命処置が行えるよう、実戦に即した手技を学んでいます。これらの実習を通して、病院と救急救命士は共に連携をはかり、日々、救命救急医療の向上に励んでいます。



↑救急外来での実習



↑薬剤投与のようす



↑器具を用いた人工呼吸

命をつなぐ
連携確認のようす

訓練用人形を使って心肺停止の現場を想定し、特定行為の連携確認を行います。指導医の見守る中、実際を思わせるような緊迫した状況で行われ、実習の成果が評価されます。



↑汗だくでの、胸骨圧迫(心臓マッサージ)

救急救命士の病院実習は、現場の救急活動の質の向上において必要不可欠です。病院実習は、医師の適切な指導のもとに行われます。

実習へのご理解とご協力ををお願いいたします。



BLS講習会を開催しました



AEDを設置しています

当院では、各階エレベーターホール・救急外来・内視鏡センター・総合案内等にAED（＝自動体外式除細動器）を設置しております。当院は県内で初めてAEDを導入した施設です。救急蘇生法普及委員会では、全職員対象のBLS講習会も行っており、現在の受講率は90%を超えております。最近では再受講を希望する職員に向けての継続教育も行っており、正しいBLSの方法・AEDの使用方法を周知しています。



当院では、宇都宮市教育委員会との共催で、宇都宮市内の小中高校教諭を対象に、BLS(Basic Life Support=一次救命処置)講習会を開催しています。



新聞に掲載されました

7月8日に行われた5回目のBLS講習会が下野新聞に掲載されました。



『新聞の本文』

市立小中学校で心肺蘇生法を学ぶ教職員が増えている。市教委が2007年度に全市立校へ自動体外式除細動器(AED)を設置して以来、対応への教職員の関心が高まつたのを受け、済生会宇都宮病院は無料講習会を始めたためだ。今年で3年目を迎える講習者は150人を突破。市教委は「心肺蘇生法を学んだ教職員を増やし、各校で複数配置を目指す」と目標を掲げる。病院のホールを利用した会場で救急医や看護師などの指導を受けながら、4人1グループの形で人工呼吸や心臓マッサージ、AEDの使い方を学ぶ。受講後は「普通救命講習修了証」が参加者に渡される。講習会は病院側の呼びかけで08年度から始まった。人工呼吸を含めた適切な蘇生法が行われていれば、病院搬送後に命が助かるケースもあつたた

め、病院側が教職員対象の講習会開催を市教委に提案した。済生会宇都宮病院は県内医療施設で初めてAEDを導入。03年度に院内に救急蘇生法普及委員会(宮武謙委員長)を発足させ、事務系も含めた全職員への蘇生法教育を進めてきた。教職員の指導も病院職員がインストラクターで参加する。市内93小中学校で受講対象の教職員は約2300人。8月には本年度最初の講習会が開かれ、約30人が参加。「子どもたちなど子どもの体がぬれた状態でも、AEDを使用していいのか」など実際に起こり得る状況を想定した質問が上がつていた。

参加した中学校男性教師(40)は「小グループ演習で繰り返し実習を行えたので、実際の場面でも心肺蘇生ができる自信が付いた」と話していた。

私たちには、正しい急救蘇生法の普及に貢献し、一人でも多くの命が救われることを願って活動を続けています。

(救急蘇生法普及委員会
委員長 宮武 謙より)

モチベーションとなりました。1回に受講できる人数は多くありませんが、今後もこの活動を継続していく、かけがえのないこの事例を経験したことが宇都宮市の教職員を対象としたBLS講習会を開催しようとする意念ながらこの児童を救命することはできませんでした。

この事例を経験したことが宇都宮市の教職員を対象としたBLS講習会を開催しようとするモチベーションとなりました。1回に受講できる人数は多くありませんが、今後もこの活動を継続していく、かけがえのない将来のある命を救うことについでも貢献できればと思います。

平成22年度 あいさつ推進標語



あいさつは
コミュニケーションの
第一歩ですね



↑職員向け啓発ポスターの一例

私たちの日本では元来、社会生活を大切に生きてきましたが、現代社会では最も基本的な「心くばりとマナー」がいろいろな場面で欠如している状況にあります。当院では、医療サービスの提供を重視し、院内教育研修センターを中心と育つて医療サービスの向上を目標に掲げています。少しでも地域の皆さんに満足をいただけるよう、「あいさつ」「身だしなみ」「接遇」を継続テーマとして研修会等を実施しています。皆さまに少しでも心地良い気分で過ごしていただけます。反対に、今年度は「あいさつ」を継続的に地道で継続的に地良といふことにしました。

私たちの日本では元来、社会生活を大切に生きてきましたが、現代社会では最も基本的な「心くばりとマナー」がいろいろな場面で欠如している状況にあります。当院では、医療サービスの提供を重視し、院内教育研修センターを中心と育つて医療サービスの向上を目標に掲げています。少しでも地域の皆さんに満足をいただけるよう、「あいさつ」「身だしなみ」「接遇」を継続テーマとして研修会等を実施しています。皆さまに少しでも心地良い気分で過ごしていただけます。反対に、今年度は「あいさつ」を継続的に地道で継続的に地良といふことにしました。

その結果、532標語の中から12標語（12ヶ月分）が優秀作品に選ばれました。作品を月々インフォメーションしながら、ひとつでも多くの場合で、少しでも笑顔で明るいコミュニケーションが増えたことを期待しています。

人はお互いに「感謝する心」をもつて接し、信頼の中で良好な関係につながればと思います。



正面玄関と西口に、左のようなポスターを掲示しています。
『感謝の心』をより多くの人と共有できるよう、ぜひご覧いただきたいと思います。

掲載月	作者名	標語	優秀作品
平成22年7月	津久井実佳	信頼は さわやかあいさつ 笑顔から	
8月	齋藤 恵美	あいさつは こころと言葉の 身だしなみ	
9月	君嶋 賢一	あいさつと 共に届ける 安心感	
10月	小倉 孝子	お疲れ様の ことばで感じる 思いや	
11月	廣瀬 英俊	笑顔で交わそう、明るいあいさつ	
12月	永森 寿以	気遣いの 言葉ひとつで 皆笑顔	
平成23年1月	大根田佳子	笑顔であいさつ 繋がる 心	
2月	栗田 聰文	あいさつは 病院みんなの 愛ことば	
3月	青木 里香	「ありがとう」その一言が元気の素	
4月	山下 美和	伝えよう 心に感じた ありがとう	
5月	諏訪 陽子	あいさつは すれ違うたび 私から	
6月	小平 敦司	あいさつを しよう 返そう 続けよう	

あいさつ! 声かけ運動! 推進中!!